

科目名	介護の基本Ⅱ(総合)						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	大島夕子		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科 2年						
授業概要	1年次より学習している「介護の基本」の授業内容の総復習を行う。また、国家試験過去問題、模擬問題を活用し授業理解を深める。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					専門用語の意味を説明することができる。	
	○	○				制度制定の背景について説明することができる。	
	○	○		○		国家試験過去問題、模擬問題で80%の正答率となる。	
テキスト・教材 参考図書	メジカルフレンド 介護の基本 国家試験対策(過去3年分)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	人間と生活・介護福祉士を取り巻く状況			授業内で解いた問題の復習		
	2	介護福祉の概念			授業内で解いた問題の復習		
	3	諸外国における介護福祉・介護福祉の基本原則			授業内で解いた問題の復習		
	4	介護における日常生活支援の基本			授業内で解いた問題の復習		
	5	生活経営と管理			授業内で解いた問題の復習		
	6	介護福祉の倫理			授業内で解いた問題の復習		
	7	介護福祉の活動の場			授業内で解いた問題の復習		
	8	介護福祉サービスの提供のしくみ			授業内で解いた問題の復習		
	9	介護における安全の確保とリスクマネジメント			授業内で解いた問題の復習		
	10	介護従事者の健康と安全			授業内で解いた問題の復習		
	11	国家試験過去問題			授業内で解いた問題の復習		
	12	国家試験過去問題			授業内で解いた問題の復習		
	13	模擬問題			授業内で解いた問題の復習		
	14	模擬問題			授業内で解いた問題の復習		
15	定期試験対策			授業内で解いた問題の復習			
評価方法	(1)定期試験による評価 (2)授業内確認テストにより評価 (3)自己学習ノートの提出(1回) 成績評価機軸は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				50%
	小テスト	○	○				30%
	提出物				○		20%
履修上の注意							

科目名	介護過程Ⅲ					
科目名(英)						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	江下 馨	
実施年度	2019	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○	
対象学科・学年	介護福祉科 2年					
授業概要	利用者の生活の継続を可能にするためのケアマネジメントについて理解したうえで、ケアプランと個別援助計画の関係について学ぶ。チームアプローチによる利用者支援の実際について理解を深める。					
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標
	○	○		○		事例検討で、自発的な意見を発言し介護過程の展開を理解した発表できる。
	○					国家試験過去問に正答できる。
テキスト・教材 参考図書	中央法規 介護過程					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	介護過程の理解 実習Ⅲ事例検討 計画の実施評価			介護過程Ⅰからのファイルを整理しておく	
	2	介護過程の理解 実習Ⅲ事例検討 展開の理解			実習Ⅲ担当利用者 日誌を整理しておく	
	3	実習Ⅲ 事例発表 作成 1				
	4	実習Ⅲ 事例発表 作成 2				
	5	実習Ⅲ 事例発表 作成 3				
	6	実習Ⅲ 事例発表 作成 4				
	7	実習Ⅲ 事例発表 作成 5			発表準備は各自おこなっておく、資料提出	
	8	実習Ⅲ 事例発表・評価 1			評価ポイントをまとめてファイルしておく	
	9	実習Ⅲ 事例発表・評価 2			評価ポイントをまとめてファイルしておく	
	10	介護過程の理解 アセスメントから評価の振り返り			配付プリントと教科書該当範囲を確認しておく	
	11	介護過程とチームアプローチ ケアマネジメントの関係性			配付プリントと教科書該当範囲を確認しておく	
	12	介護過程とチームアプローチ チームアプローチにおける役割			配付プリントと教科書該当範囲を確認しておく	
	13	アセスメントの実際 在宅生活事例 アセスメント表作成 1			配付プリントと教科書該当範囲を確認しておく	
	14	アセスメントの実際 在宅生活事例 アセスメント表作成 2			配付プリントと教科書該当範囲を確認しておく	
	15	介護過程展開の実際 入所生活事例 アセスメント表作成 1			配付プリントと教科書該当範囲を確認しておく	
	16	介護過程展開の実際 入所生活事例 アセスメント表作成 2			配付プリントと教科書該当範囲を確認しておく	
	17	利用者の生活と介護過程の展開 事例から考える利用者の生活			配付プリントと教科書該当範囲を確認しておく	
	18	介護過程の実践的展開 入所施設における介護過程の展開 1			事例から必要と思われる箇所を確認しておく	
	19	介護過程の実践的展開 入所施設における介護過程の展開 2			事例から必要と思われる箇所を確認しておく	
	20	介護過程の実践的展開 入所施設における介護過程の展開 3			質問ができるようにまとめておく	
	21	介護過程の実践的展開 入所施設における介護過程の展開 4			質問ができるようにまとめておく	
	22	介護過程の実践的展開 介護計画立案にむけたグループワーク 1				
	23	介護過程の実践的展開 介護計画立案にむけたグループワーク 2				
	24	介護過程の実践的展開 事例発表作成 1				
25	介護過程の実践的展開 事例発表作成 2					

	26	介護過程の実践的展開 事例発表作成 3	グループで発表準備をしておく、資料提出				
	27	介護過程の実践的展開 事例発表 1					
	28	介護過程の実践的展開 介護過程の視点 評価 まとめ	評価の視点はまとめてファイリングを行う				
	29	国家試験問題 1 解答と解説	ファイルを順番にまとめておく				
	30	国家試験問題 2 解答と解説 介護過程Ⅰ～Ⅲ ファイル提出					
評価方法	(1)講義内で事例検討、発表を行う。(2)介護過程過去問題を実施する (3)最終日にファイル提出がある以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	事例検討・発表	◎			○		50%
	国家試験過去問題	◎					30%
	ファイル提出	○					20%
履修上の注意	1年次からのファイルは順番にまとめておく。注意しても15分以上の著しい居眠り等は欠課扱いとする。						

科目名	社会保険制度						
科目名(英)	Social security system						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	坂本 毅啓		
実施年度	2019年度	実施時期	通年(後期)	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	介護福祉科 2年						
授業概要	介護実践に必要な知識という観点から、介護保険や高齢者や障害者自立支援法を中心に、社会保障の制度、施策についての基礎的な知識を身につける。また、利用者の権利擁護の視点及び職業倫理観を養う。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					わが国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、しくみについて理解する。	
	○					介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化である介護保険制度と障害者自立支援制度について、介護実践に必要な観点から基礎的知識を習得する。	
	○					介護実践に必要とされる観点から、個人情報保護や成年後見制度などの基礎的知識を習得する。	
テキスト・教材 参考図書	中央法規出版 介護福祉士養成講座2 社会と制度の理解						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	社会保障の基本的な考え方 授業概要			教科書の該当ページを読んでおくこと。		
	2	国家試験対策 解説			"		
	3	年金保険(国民年金・厚生年金)			"		
	4	年金保険(国民年金・厚生年金)解説			"		
	5	年金保険(国民年金・厚生年金)			"		
	6	年金保険(国民年金・厚生年金)解説			"		
	7	介護保険			"		
	8	介護保険(解説)			"		
	9	雇用保険			"		
	10	雇用保険(解説)			"		
	11	労働者災害補償保険			"		
	12	労働者災害補償保険(解説)			"		
	13	関連制度 1			"		
	14	関連制度 2			"		
15	まとめ			"			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)講義中に小テストを実施する。(3)宿題で課題レポートを実施する。 (4)制度について調べ、Pポイントを作成し、発表する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎					50%
	小テスト	◎					10%
	宿題・レポート	◎					10%
	発表・視覚的資料		◎				30%
履修上の注意							

科目名	障害の理解						
科目名(英)	Understanding Disability						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	角屋 佳代		
実施年度	2019年度	実施時期	通年(後期)	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科2年						
授業概要	介護福祉士が障害のある人と向き合うための基本的な事柄を知り、障害の概念、障害者福祉の基本的理念を理解する。それぞれの障害種別ごとの生活があるため、それぞれの生活を理解したうえで、どのような介護技術を必要としているかを学び、自立に向けた生活視点をもつ。また家族や他職種との連携、家族支援のあり方やチームアプローチの方法を学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				障害のある人について医学モデルや社会モデルといった視点から説明することができる。	
	○	○				それぞれの障害の特性について配慮した介護の根拠について説明することができる。	
	○	○				家族支援の視点とレスパイトケアについて説明することができる。	
	○	○				地域のサポート体制や福祉用具をはじめとした障害者福祉の施策について説明することができる	
○			○		生活支援の場面において障害があるひとの心理的、身体的特徴へ配慮できる。		
テキスト・教材 参考図書	中央法規「障害の理解」「社会の制度と理解」 ミネルヴァ書房「社会福祉小六法」						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	前期確認テスト			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	2	障害別の特性に応じた介護 ~ 重複障害のある人の生活			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業のあとは必ずもう一度学習内容に目を通しておく		
	3	特性に応じた支援 精神障害① 精神障害とは 精神障害の種類			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業のあとは必ずもう一度学習内容に目を通しておく		
	4	特性に応じた支援 精神障害② 精神障害の種類 特性の理解			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業のあとは必ずもう一度学習内容に目を通しておく		
	5	特性に応じた支援 精神障害③ 障害の特性に応じた支援			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業のあとは必ずもう一度学習内容に目を通しておく		
	6	特性に応じた支援 重症心身障害			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業のあとは必ずもう一度学習内容に目を通しておく		
	7	特性に応じた支援 視覚障害			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	8	特性に応じた支援 難病① 難病とは おもな難病の理解			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業のあとは必ずもう一度学習内容に目を通しておく		
	9	特性に応じた支援 難病② おもな難病の理解 難病の特性の理解			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業のあとは必ずもう一度学習内容に目を通しておく		
	10	特性に応じた支援 難病③ 特性に応じた支援			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	11	共同と連携① 地域のサポート体制			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業のあとは必ずもう一度学習内容に目を通しておく		
	12	共同と連携② チームアプローチ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業のあとは必ずもう一度学習内容に目を通しておく		
	13	家族への支援①			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業のあとは必ずもう一度学習内容に目を通しておく		
	14	家族への支援②			重要ポイントを再度確認するため、これまでのノート やプリント類を事前に整理しておくこと		
15	まとめ			重要ポイントを再度確認するため、これまでのノート やプリント類を事前に整理しておくこと			
評価方法	(1)授業の中で項目ごとに小テストを実施する。正答率80%未満であれば補講および再テストを実施する。 (2)宿題・レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。(4)授業には積極的に参加すること 以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				50%
	小テスト	○	○				30%
	宿題・レポート	○	○		○		10%
	発表・作品 出席状況		○		○		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。 授業態度が著しく悪い場合は出席とみなさない。						

科目名	生活支援技術Ⅱ(総合)					
科目名(英)						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	江下 馨	
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○	
対象学科・学年	介護福祉科2年					
授業概要	校外学習を通し、障害者福祉団体の取り組み、役割、福祉従事者としての視野、地域貢献活動を学ぶ。生活支援技術の知識・技術の振り返りと学習の定着。					
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:	
					実技:	
					※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標
	○		○	○		国際車いすバスケット世界大会に参加。ボランティア内容を把握して動くことができる
	○		○			生活支援技術の知識・技術を他者に説明することができる
テキスト・教材 参考図書	国際車いすバスケット世界大会 運営規定 中央法規 生活支援技術Ⅱ					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	国際車いすバスケット 事前研修 1 趣旨説明・基本的な生活支援技術				趣旨理解・動きの確認をしておくこと
	2	国際車いすバスケット 事前研修 2 趣旨説明・基本的な生活支援技術				趣旨理解・動きの確認をしておくこと
	3	国際車いすバスケット ボランティア実践 1				他役割のサポートができるよう全体の動きを確認する
	4	国際車いすバスケット ボランティア実践 2				
	5	国際車いすバスケット ボランティア実践 3				
	6	国際車いすバスケット ボランティア実践 4				
	7	国際車いすバスケット ボランティア実践 5				
	8	ボランティア実践 振り返りとレポート作成 1				振り返り内容をまとめておく
	9	ボランティア実践 振り返りとレポート作成 2				
	10	生活支援技術演習 食事の介助				生活支援技術 1年次復習をしておくこと
	11	生活支援技術演習 着脱の介助				生活支援技術 1年次復習をしておくこと
	12	生活支援技術演習 移乗・移動の介助				生活支援技術 1年次復習をしておくこと
	13	生活支援技術演習 排泄の介助				生活支援技術 1年次復習をしておくこと
	14	生活支援技術 実技テスト 1				実技テスト練習をしておくこと
15	生活支援技術 実技テスト 2				実技テスト練習をしておくこと	
評価方法	(1)ボランティア出席状況とレポート評価を行う。(2)生活支援技術実技試験を行う。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	出席率				○	
	レポート	○				
	実技試験	○		○	○	
						評価割合
履修上の注意	ボランティア当日遅刻・欠席をしないこと。生活支援技術は、留意点を述べ、適切な援助ができるよう自己学習を行うこと。					

科目名	生活支援技術 I A-②						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	三浦 薫		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科 2年						
授業概要	家庭生活、被服生活について講義 被服生活では演習で基本的縫い方を目標とする						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				家庭生活、被服生活について学び、試験で答えることができる。	
			○	○		演習で基本的縫い方ができる。	
			○	○		にぎりん棒を作ることができる。	
テキスト・教材 参考図書	中央法規 生活支援技術 I 4版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	家庭生活の理解 家族の意味・家庭の在り方・少子化問題			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	家庭管理 高齢者の生活時間の現状、情報管理・生活状況			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	家庭経済 収入・資質について、消費者を守る法律			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	被服生活 被服の起源、機能、役割、高齢者からの技術伝承			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	被服管理 サイズ表示、繊維分類、洗濯表示、洗剤、他			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	高齢者、障害者の被服について 着心地の良い衣類、和服			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	基本的縫い方 ① 用具について、並縫い、返し縫、まつり縫い			配付プリントを読んでおくこと		
	8	基本的縫い方 ② ボタンつけ、コの字まつり			配付プリントを読んでおくこと		
	9	刺し子 ① 布に下絵を書く			配付プリントを読んでおくこと		
	10	刺し子 ② 縫い糸を「しごく」			配付プリントを読んでおくこと		
	11	刺し子 ③ 縫い糸を「しごく」			配付プリントを読んでおくこと		
	12	にぎりん棒 ① 布・平ゴムに標つけ、平ゴムを返し縫い			時間内に出来ないものは自分で取り組んでおくこと		
	13	にぎりん棒 ② パイプを入れ、綴じる			時間内に出来ないものは自分で取り組んでおくこと		
	14	寝衣・寝具について 寝衣の種類、寝具の種類材質			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
15	前期試験対策 提出物評価			1コマ目からの復習をしておくこと			
評価方法	(1) 定期試験(筆記)を実施する。(2) 3つの演習を評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				50%
	演習(基本縫い)			◎	○		5%
	演習(刺し子)			◎	○		15%
	演習(にぎりん棒)			◎	○		30%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	総合学習					
科目名(英)						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	大島 角屋 江下	
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○	
対象学科・学年	介護福祉科2年					
授業概要	国家試験の出題範囲である「人間と社会」「介護」「こころとからだ」の3領域について、基礎知識の確認し、応用問題に取り組む。					
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標
	○	○		○		3領域に関する基礎知識が定着する。
	○	○		○		課題に取り組み正誤の解説をができる。
テキスト・教材 参考図書	ワークブック上下・国家試験過去3年分テキスト・用語辞典・小六法					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	模擬試験			自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと	
	2	模擬試験			自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと	
	3	模擬問題 午前問題解きなおし			自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと	
	4	模擬問題 午前問題解きなおし			自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと	
	5	領域別【社会の理解】 1			自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと	
	6	領域別【こころとからだ】 1			自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと	
	7	領域別【こころとからだ】 2			自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと	
	8	領域別【社会の理解】 2			自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと	
	9	領域別【こころとからだ】 3			自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと	
	10	領域別【社会の理解】 3			自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと	
	11	領域別【こころとからだ】 4			自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと	
	12	領域別【介護】 1			自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと	
	13	領域別【社会の理解】 4			自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと	
	14	領域別【こころとからだ】 5			自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと	
	15	領域別【介護】 2			自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと	
	16	領域別【こころとからだ】 6			自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと	
	17	領域別【介護】 3			自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと	
	18	領域別【介護】 4			自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと	
	19	領域別【社会の理解】 5			自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと	
	20	領域別【こころとからだ】 7			自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと	
	21	模擬試験 午前問題			自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと	
	22	模擬試験 午後問題			自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと	
	23	模擬試験 午前問題解きなおし			自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと	
	24	模擬試験 午後問題解きなおし			自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと	
25	学力評価試験に向けて自己学習			自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと		

	26	学力評価試験					自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと
	27	学力評価試験					自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと
	28	学力評価試験 解きなおし					自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと
	29	学力評価試験 解きなおし					自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと
	30	学力評価試験 抜粋テスト					自己学習用ノートを作成し、自己学習を行うこと
評価方法	(1)授業の中で模擬試験実施。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				50%
	模擬試験	○	◎		○		50%
履修上の注意	合格点に満たない場合は、補講を行うので必ず出席すること。 領域別にファイルを作成し、プリントを整理すること。						

科目名	卒業研究					
科目名(英)						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	大島タ子	
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○	
対象学科・学年	介護福祉科 2年					
授業概要	2年間の介護福祉科での学内学習、実習経験の中で、自らの研究課題を設定し、検証をしていく。その研究過程を通して主体的に取り組む姿勢を身につけ、研究の展開方法を理解し結論を導き出すことができる。					
授業形式	講義:	○	演習:		実習:	
				実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○		○		自らの研究目標を明確にし、卒業研究完成まで計画的の取り組みことができる。
	○	○		○		自ら設定したテーマの現状を捉え、課題を明確にし、今後の方向性を導き出すことができる。
	○	○				卒業研究執筆のルールを守り完成させることができる。
テキスト・教材 参考図書	福祉系学生のためのレポート&卒論の書き方					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	卒業研究の実施について(概要)				関連する情報を集める
	2	個別ガイダンス				関連する情報を集める
	3	卒業研究(情報収集)				関連する情報を集める
	4	卒業研究(情報収集)				関連する情報を集める
	5	卒業研究(情報収集)				関連する情報を集める
	6	卒業研究(情報収集)				関連する情報を集める
	7	情報の整理・骨子作成				情報の整理
	8	情報の整理・骨子作成				情報の整理
	9	卒業研究本文作成				文章の見直し・作成
	10	卒業研究本文作成				文章の見直し・作成
	11	卒業研究本文作成				文章の見直し・作成
	12	卒業研究本文作成				文章の見直し・作成
	13	卒業研究本文作成				文章の見直し・作成
	14	卒業研究本文作成				文章の見直し・作成
15	卒業研究本文作成				文章の見直し・作成	
評価方法	(1)レジュメの提出、本文中間提出(2)卒業研究の完成(3)態度・意欲をもって評価とする。 成績評価機軸は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	定期試験(卒業研究完成)	○	○			50%
	小テスト					
	レジュメ	○	○		○	25%
	中間提出	○	○		○	25%
履修上の注意	卒業研究作成にあたり、外部に出る場合は事前に担当教員の許可を得ること。					